

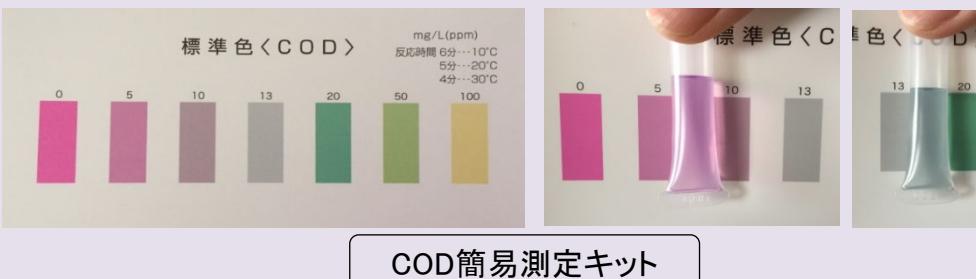
【全体概要】

水稻は、その窒素吸收量の60～70%を土壤有機物の分解に伴い発現する地力窒素に依存している。このため、地力窒素を把握して適正な施肥を行うことは、水稻の生産性向上につながる。農研機構が新たに開発した水田土壤可給態窒素の迅速評価法の本県水田土壤への適応性を明らかにするとともに、産地の意見を反映した評価法を確立する。

新品種・新技術等の概要

【水田土壤可給態窒素の迅速評価法】

乾土に蒸留水を加えて25°Cで1時間振とう後、ろ過し、ろ液の有機態炭素量(TOC)か化学的酸素消費量(COD)を測定する。測定値から可給態窒素量を推定し、地力窒素を評価する。



主な取組内容

○県内水田土壤への新たな評価法の適応性調査
(R1:184地点、R2:87地点)

○分析研修会、情報交換会
(R1:3回、R2:7回)

○水田土壤診断の事例調査(群馬県)

○新たな評価法の活用事例調査(富山県)

○「地力窒素の迅速評価法を活用した水稻施肥診断マニュアル」の作成とアウトリーチング活動
(R2:4回)

実施体制図

【農業総合試験場】
・分析技術の情報提供
・技術指導
・問題点への改善策の提案

【普及指導センター】
・調査対象は場の選定
・土壤採取と試料調整
・栽培管理情報の収集
・水稻生育状況の把握
・問題点の抽出と情報提供

【生産者】
・現場ニーズの情報提供
・栽培管理情報の提供

【農業経営課】
・計画作成と事業運営の支援
・検討会と研修会の開催の支援

【実需者】
・実需者ニーズの情報提供
・マニュアル作成への提案

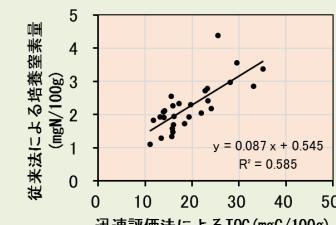
実績と今後の展開

○県内水田のうち、以下の土壤統群で本評価法の適応性が確認された。

【TOC測定法】中粗粒灰色低地土・灰褐系:25点、中粗粒灰色低地土・灰色系:35点、細粒灰色低地土・灰褐系:10点

【COD測定法】中粗粒灰色低地土・灰褐系:25点、中粗粒強グライ土:15点

○「地力窒素の迅速評価法を活用した水稻施肥診断マニュアル」を作成した。担当普及指導員を通じて今後施肥指導に活用される見込みである。



迅速評価法と従来法の比較
(中粗粒灰色低地土、灰褐系)